

# 2013年度 赤のアセンション日記

## No3 武志

2013年は、愛について探求する機会が多く、「愛にはじまり、愛に終わる」年であったように思います。愛に意識を向けていくほど、愛について学ぶことが多く、体験を通して、愛の意識となってきました。それは、人としての成長を感じた体験でした。

アカデミーでの学びは、座学に始まりますが、学んだことを実践し、体験することで、理解を深めていきます。2013年に学んだ愛についても、同じプロセスを実践と体験をもって、自分の腑に落ちる感覚を重ねてゆきました。

2013年は、一言でいうと、愛のための覚悟から始まりました。真に愛を学ぶために、心から願い、全力で愛となることを決意し、宣誓して始まりました。求めよ、さらば与えられん、と言えらると思います。

それは、愛を信じ抜くことでした。実践したことは、どんなときも愛をもって生きる、厳しいと感じる状況でも愛を選択する、その意識を継続することです。それは、様々な関わり合いの中で、相手を愛をもって見ることでもありました。はじめは難しさを感じることもありましたが、愛を選択する積み重ねが、それが正しいとの確信となり、愛を選ぶ意志を強くしてくれました。ハートが強くなり、愛を選ぶことが難しいことではなくなっていました。

ハート強くなると、日常に変化が現われてきました。調和、優しさ、思いやり、つながりが、日常にたくさん現われてきました。愛があふれてくるようにも感じ、ハートが活性化されていきましたし、大切なもののために、自らが愛を選択していたように思いました。

愛とは、しあわせそのものであるとも感じ、愛そのものが、愛おいしいと思えて仕方ありませんでした。その思いを持っている人も、愛おいしいと感じる体験が増え、愛や信頼、絆、いろいろな思いがありました。そのすべてに、感謝の

想いがこみ上げ、自分の中に愛が拡大していったような気がします。

愛の意識になっていくことは、この地上でアセンションしていくこと＝人類として進化していくことと、でもあると思いました。愛の度数が上がることで、現実が変わっていくことを明確に体験したことも、愛を貫く自分に成長させてくれましたし、すべては意識次第と感じています。

このアカデミーには、娘と一緒に参加し学んでいます。親として、愛への理解を深めていくと、彼女たちがとても純粋で、強い想いを持って、この地球に来ていることに感動する機会もありました。その純粋な想いとは、地球への愛で、とても強いものでした。彼女たちが、24時間地球に愛を贈り続けていることを知り、この地上に愛を広げるために来ていることに、感動しました。

またアカデミーの仲間は、まるで家族のような信頼のある方々ですが、その愛から学ばせていただくことも多いのです。人と人との関わり合いで、気づきから学びが深まっていきます。ひとりひとりの長所も様々で、互いに学び合う存在としてかけがえのないこと、ひとりひとりの想いは、愛で共通していることを実感していきました。

ひとつの想いで、ライトワーカーとして実働する素晴らしさ、一体感でした。仲間・同志としての信頼・絆を深め、この絆があるから、これからもたくさんのかたちを一緒に成し遂げていける、そのように感じる同志・家族です。愛でつながっているように思いました。

地球がアセンションしていくこと、地球人類がしあわせになること、それを願ってライトワーカーとして実働していますが、日本人として何ができるのか、それが2013年を通して、ますます明確になってきました。これは、日本人として生まれた意味を知ること、そのことへの感謝に気づくことでした。

愛がすべて、あらゆるすべてを統合するのが愛、この日本から世界を愛でひとつにしたい、そのような気持ちがこみ上げ、まるで、愛を叫ぶような気持ちにさせられることもありました。愛のために、愛を誓う、愛なら出来る。地球のアセンションのためにも、愛そのものになっていく必要があると思いました。

愛が普遍的な叡智として、世の中に浸透していく時、何かが変わるとわたしは思います。地球全体に大きな変化が訪れる気がします。いまもその兆候を感じています。そのために、1日1日を大切に、愛を選択し続ける、愛を誓い続ける、そして愛の意識になる。その必要があると思っています。

愛が真実であり、信じ続けること、それが真に人類の進化、地上からのアセンションであると思いますし、いよいよその動きが始まったと思います。地球が人類とともに、本当にアセンションをしていく、そのためには、真剣にやっ  
ていくのみです。家族のような同志たちと、いっしょに、想いをひとつに、愛そのものの人類になっていきたいと思います。